タウンミーティング議事録

1 日 時

令和5年7月15日（土）午前10時から12時まで

2 場 所

オンライン

3 参 加 者

井崎市長、伊原健康福祉部長、若林総合政策部次長（司会）

4 来場者数

6名

5 質疑回答

次のとおり

Q 市民

井崎市長の施策等ご努力によって、この流山市も 21 万人という大きな都市になりました。

現在ご存知のように子育ての町としても人気が出て、7 年連続ですかね、人口増加率日本一ということで素晴らしい実績じゃないかなと思っております。子供たちの増加に伴って、小中学校の増設も、進められておられます。

私のつたない考えですと、このまま 15 年 20 年経ちますと、お子さんたちも社会人になって多分流山を出ていくのではなかろうかなあということも考えておまして、市内の人口も、首都圏への通勤可能な地域も大分少なくなってきていると思われまますので、人口の高齢化とか、人口減少が、危惧されます。そういうことで、2 点の質問ですけども、まず最初は、このような状況を解消するために、新たな子育て世代の誘致、それと、人口増加対策について、どんな施策をお持ちなのか伺いたいと思います。

2 点目は、今お話したように、そういう現象になってきててもですね、税収を確保するために、施設用地が必要になってくるのではないかなと思います。市の財源確保のためにですね、いろいろ数年前から流山インターの方に、配送センターなんかも稼動しておりますし、市役所の裏の空き地にも、何かデータセンターを作るといような、テレビで見たことがありますけども、そういうのも考慮し、雇用も考慮した工場や施設の誘致等も考えておられるのか。以上 2 点お聞きしたいと思います。

A 市（井崎市長）

ご質問ありがとうございます。まず、人口に関してのご質問と、2 点目の企業誘致の質問を順におって話をしたいと思います。

まず人口ですけども、10 年前、もうすでに流れはもう流山は少子化に入っておりました。これを何とかしようということで、子育て世帯から選ばれるまちづくりという政策に力を入れてきました。その結果、子供が増えているということと、その関係で、今度はおじいさんやおばあさんたちが流山市にいる孫にお会いに来ているうちにですね、新たに流山市に住まれるといようなことで、0 歳から 100 歳までのすべての人口で転入超過になっています。

そういう状況にありますけれども、現在、約 21 万 1,000 人となりました。流山市の人口推計では、2027 年、あと 4 年後に、21 万人台半ばぐらいでピークアウトするという推計があります。

ただですね、これからさらに大型マンションができて人口が一気に増えてくることはなくなっていくます。

そんなことで今年もですね、今まで年 5,000 人ぐらいの増加だったのが、今のところ 3,500 人から 3,600 人だと思いますが、少し落ち着いてきています。ただ新しい現象として顕著になっているのが、例えば、江戸川台とか、松ヶ丘、或いはそれ以外の既成住宅地ですね、もう 5・60 年前に開発された比較的広い戸建てで、良質な住環境の住宅地が、世代交代になってきています、相続等で物件が出てきます。

流山の場合は、地区計画をかけているので、例えば江戸川台ですと、300 平米以上ある区画については、分けて、150 平米の区画 2 つにすることができるという地区計画があります。

地域によってそれぞれ内容は違いますが、そういう地区計画で、むやみにもものすごく小さな区画がたくさんできるということは、考えにくいんですけども、少なくとも 100 坪のお宅が二つになるということはありません。今、それが進み始めていて、そこに子育て世代の方が、順調に入ってきていて世代交代が進んでいます。

全国では、その世代交代で相続物件が市場に出てきたときに空き家になるわけですね。

流山の場合は、それが世代交代で順調に、また、子供の人口の増加に繋がっているという動きが出ていますので、人口推計として 4 年後に 21 万数千人で、ピークアウトするかどうかというのは、少し難しくなって、さらにピークが延伸したり、もう少し増える可能性が出てきています。ただ、これはどのぐらいまで増えるかっていうのは、やっぱりきちんと統計分析をしないと行けませんので今ここでは申し上げられませんが、ただ、流山市の人口ピークアウト 2027 年、そして 21 万人半ばというのは、少し上振れする可能性があるというふうに考え始めているところです。先ほど申し上げたように 20 年前は、0 歳から 30 歳まで毎年減っている状況でした。

それが今、就学前の子供たちが、15 年前と比べると 85% 増えています。この子供たちが大きくなった時に出ていくかどうかなんですけど、まず小学校、中学校、高校まではおそらく、地元の実家において、大学生になってもつくばエクスプレスができたので、実家から通う方の割合は増えています。

以前はそれを基に、大学に入ったり就職して、都内、或いはそれ以外のところで独立されて、流山市から離れるケースがありましたけど、今は可能な

範囲で地元の実家から通う学生や社会人が増えてはいます。

それから、そのあと就職をされると、どうしても転勤等で市外に移られます。今までは、流山市は、そこで出て、そのまま戻ってこなかったんですね。ですから 30 歳以下の人口が減っていくという傾向が顕著でしたけれども、今はですね、20 代半ばに戻ってくる数が大分増えてきています。

例えば中学校のクラス会などでもですね、流山の子供たちが、特に結婚した後、戻ってきてるケースが非常に増えてきています。

これからも住み続けたいまちである環境整え、維持できればですね、それは出ていくばかりということにはならない。むしろ、相続物件が出てきたときに、顕著に埋まっていくというふうに考えています。

ただ流山市全体で、流山市に転入される方の半分が流山市及びその周辺に実家のある方なんですけど、最近、流山市の知名度や人気によって、或いは子育て環境の充実が大きいと思いますが、流山に縁もゆかりもないけれども流山に転入してきて、家庭を育むスタートをするという方が半分近くいらっしゃいます。

その後、お子様たちが、流山で育って、そしてそのあと一時的には出て行かれるということもありますが、やがて子育てをしたり、人生のタイミングで流山に戻ってきていただけるような秀逸な住環境の整備に努めて行って、住みやすい町だなということを改めて認識して、ぜひ戻ってきていただきたいですし、その傾向はもうこの 10 年、かなり顕著になってきているというふうに思っています。

それから企業誘致の質問ですが、流山市の場合は、税金の大きなところ、固定資産税や住民税ですね。住民の皆様の給与所得に応じた金額で税金を納めていただく割合が大きいので、企業誘致というのはとても重要です。

流山市は、誘致推進課というのも設立して約 15 年経っています。また、企業等立地の促進に関する条例というものを作って、企業誘致、特に本社の誘致、それからですね、子育て世代が急増していることで、小児科と産科が足りないということで、これについても、この企業誘致対象事業として、手厚く、助成をして小児科産科の誘致も進めてきております。

今ある計画も含めて、全国的な人口の割合でいくと、流山市の小児科と産科は、平均以上の状況となっています。

それからあと大きな企業誘致でいきますと先ほどおっしゃっていただいたインター周辺の物流ですけれども、この物流は、10 年ほど前から、構想とし

て動き出し、そして現在は、この夏から秋にかけてすべて完成します。床面積がですね、約 175 万平米という、日本最大の物流センターになります。働く方が 1 万人を超えておりまして、税収的には、固定資産税で令和 5 年度で約 15 億円を想定しています。

最近は、物流センターの使い方が非常に多様化してきて、設備投資をされて、償却資産が増える傾向も、当初よりもありますので、先ほどの固定資産税以外にも、税収源として期待しているところですよ。そうは言ってもですね、やっぱり適正人口というのもありますし、人口がむやみに増えていけばいいということではないので、先ほどの人口ピークは少し上振れする可能性がありますけども、もう流山市としては、私の個人的な感覚ですが 22 万人ぐらいがアッパーで快適な都市環境の維持ができる範囲ではないかというに考えています。

それから企業誘致についても流山市は非常に地価が高いので、市街化調整区域で、物流のような大きな大規模なものをというのに限られてきますし、あとはやっぱり付加価値の高い、生産性の高いものが、市街化区域の中に、大きなものでも小さなものでも、誘致していくという方向であります。

そういう意味では税収はですね、先ほど物流センターはトータルで約 2000 億円投資されてますので、ちょうど 10 年、20 年単位であれば、流山市の財政状況について、非常に寄与できる産業形成になっています。

今まではベッドタウンという印象でしたが、産業も相当強化されてきているというふうに思います。

それからもう一つ住民税において、特に最近、土地の価格が上がってきて、住宅の価格も上がってきていますので、毎年少しずつですけども、市民の納めていただく税金、或いは元になる所得が年々少しずつ上がってきています。そういう意味では、20 代後半から 30 代半ばの方が転入してきて、少なくとも、子育てが終わって落ち着くまでは、住み続けられる傾向が強いので、流山市としては、少なくとも、四半世紀の 25 年ぐらいはですね、税収が安定して伸びていくというふうに見ております。

Q 市民

今市長の話にもありましたけど、私は 2004 年に縁もゆかりもない関西の地から、家族 5 人で流山に引っ越してきて、市長の政策に寄与した者でございます。

まず先ほど話ありましたけど、次男が大学で外に出てましたけども、去年結婚して、配偶者を連れて流山の初石付近で、自分で家を建てて、流山に戻ってきて、流山の工務店で建築士をやっているという感じです。おかげさまで流山に根付いているという感じです。

2004年に引っ越してきて、いろいろ流山の発展を見てきて伸び盛りだったと思うんですけども、ちょっと心配なことがこれから二つあって、やっぱり人が増えてくると、どうしてもやっぱり安全安心っていうところを考えなきゃいけないのかなというふうに思っています。

これは別に悪いことではなくて、やっぱり人が多くなると確率論の話だとは思いますが、一つはやっぱり交通事故、やっぱり道路整備なんですけど、日頃私も車を運転していて、本当に申し訳ない言い方かもしれませんが、ものすごく流山のまちは走りにくいです。

おたかの森のように、整備されてるところは人が増えていますが、皆さんは、渋滞してると言われてましたけども、私がいた大阪とか神戸とか比べると、スムーズに車は流れていて、むしろ郊外なんですよ。

例えば流山街道のところで右折車線がないから、右折する車のため、ずっと止まって、おまけに踏切があったりとかして、止まっているという感じのことがよく見かけられます。

だんだん渋滞も長くなってくるんで待ちきれないのかちょっとスーパーに入ろうと思うとですね、反対車線を長距離でばあーと走ってこられる方もおられたりして、結構ヒヤヒヤする場合があります。

そういった大掛かりな道路整備だけではなくて、そういったところを工夫するような道路環境の整備っていうのが、一つお願いしたいということと、もう一つのお願ひ点は、見守りなんですよ。

やっぱり流山いいなと思ったんですけど、運河の堤防を散歩するんですけど、よく放送で、こういう服装のおばあさんが、行方がわからなくなってますとかいうのも、割と聞くんですよ。

神戸ではご存知の通り、小学生が結構危ない目にあったりとかしてるようなところだったので、監視カメラだとか、そういったものが今頻繁についているんですけども、バラバラに設置するのではなくて、何かこう行政が、管轄して、個別についてるカメラを、つなげることによって、市民の方の見守りとか、もちろんプライバシーの問題もあるんですけども、そういった見守りができないでしょうか。というこの安全安心に関する二つの質問を市長にお伺

いしていききたいなと思っています。

A 市（井崎市長）

まず道路交通の関係でお答えしてきたいと思います。

T X沿線の区画整理事業地内では、まだ一部道路が計画通りに接続されていないために、そこが渋滞のネックになっているという状況にありますけども、これも流山で区画整理事業地内のうち2路線は、今年度から来年度ぐらいで、概ね完成する予定です。これは千葉県が施工してるところがほとんどで、これまでに遅れてきました。

特にですね、渋滞がその既成市街地も道路で、非常に問題があるというふうに流山市で認識しているのは、西深井幹線と流山街道ですね。マックがあるところですね。ここについては、もう認識はしてはいて、プランを作りつつあるんですが、問題は地権者のご協力とタイミングなんですね。

地権者は、やっぱりリースがあって、契約期間が終わらないと、設備投資したものが回収できないので、移転するとなる分、その分を流山市が税金で補填することになって非常に高い。

西深井幹線から、さらに北の運河橋を渡って、すぐの理科大へ入る入口のところ、おそらく流山市内で最も渋滞、恒常的に、一番激しい地区だと思っています。

原因は、この西深井地区の交差点で右折左折レーンがない。それから理科大の入口のところで、南からいくと右折レーンがないために、1キロから1.5キロぐらいの渋滞が恒常的に発生しているということを認識しています。

先ほど申し上げたように西深井幹線の交差点については、もう計画は進めていて、あとはもう地権者の、リーシングのタイミングなんですね。

それに合わせていくということで進めています。

それから、理科大へ入る入口は、そこの手前に右折レーンがないために、ずっと渋滞になるわけですね。その右折レーンを作るためには、今の運河橋の上にも、右折レーンが引っかかってくるので、その重量が耐えられるかどうかという調査をする予定です。

それが耐えられるということになれば、比較的スムーズに右折レーンを設置して、理科大のほうに入れるところを作りますので、そういう意味では、重量が確認できれば、多少の工事で、例えば歩道を少し狭くして、或いは橋の歩道をですね、両サイドにあるのを一つにして、少しレーンを広くすると

というようなことで対応できるので、そんなに時間はかからないですが、もし右折レーンを作るとそこに車が並んだときに、今の橋では耐えられないということになると、大変大掛かりな工事になるので、ここについては、ちょっとすぐの解決というのは、難しくなります。

結果がわかり次第、議会そして市民の方にお知らせしていきたいと思えます。

それ以外の既成市街地の場合は、道路の整備というのは、大体、立ち退き、とか土地の買収がもう前提になりますので、非常に時間がかかりますが、問題のところについては、何ヶ所か着手しています。時間がかかりますけども、とにかく手をつけて、何とか改善していこうということで動いております。

それからカメラ（防犯カメラ）については、これは警察と流山市とで、協議をしながら、毎年新設していく場所について、警察の方で判断されます。マンションなどで管理組合が設置している、私有地のもの以外については、警察ですべて場所も、それから何かあった時の事故とか犯罪があった時に見るためにどこにどう配置されてるかということは警察の方で、全部把握していますので、個々にバラバラと設置されているわけではなくて、すべて警察が承知しながら、設置されてきています。

それから、見守りですけれども、今ですね流山市は比較的早い段階で、75歳以上、究極的な、問題解決の目的はですね、地域に支え合いをすることで、災害時に必要な方に支援ができるようにということが最終目標なんですけど、あとは孤独死の問題とかありますので、75歳以上の方のみの世帯、或いは要介護認定を受けている方、それから障害をお持ちの方、そして、市に希望登録される、75歳未満でも単身でお住まいの方々に、この見守りの登録を希望される方についての情報を、民生委員や、高齢者なんでも相談室、或いは警察消防等の機関には協定、協議をしますし、これらの団体と協定を結んだ自治会には、この名簿をお渡ししています。

ただし個人情報のお塊ですので、自治会とも、守秘義務や、他についての協定を結ばさせていただいています。

私が住んでる自治会でもですね、班がありまして、その班員が自主的に見守りの一環として、1年に1回、懇親会をやっていきます。そうすると、人が入れかわったり新しい方が移ってきたときに、どんな方が住んでるのか全くわからないので、懇親会の時に、この方には小さなお子さんがいらっしゃるんとか、或いはこの世帯には、おばあちゃんや障害者と住んでらっしゃるんだ

いうことを、皆さんが理解をし合って、そして、何かの時には、声をかけて、救命、或いは救出が必要な場合には、協力していくというような活動していただきますけれども、これは任意ですけれども、少なくとも自治会で協力して下さる、或いは協定を結んでいただいた自治会にはそういった見守りが必要な方のリストを提供していますので、お住まいの地域ですと、落ち着いた住宅地のエリアですので、自治会にお問い合わせいただくと、この見守り活動をされている自治会が多いかと思えます。

例えば要介護3で、自立して何とかやっていた単身者が次の年には特養に入らっしゃるかもしれません。そういうことで情報を更新しながら、その地域で共有されて行くことが重要だと思います。ぜひ、自治会にお問い合わせいただいて、この地域支え合い活動に参加されてるかどうか。万が一、本当に皆さんの方からですね、自治会でこういう会を、こういう活動ができるように、先ほど申し上げた、警察や消防、それから市の関係機関と協定を結んでも見守り活動を始めないかというようなことを、ぜひご提案いただければと思います。

それからあと、先ほどお話のあった認知症の方の行方不明のアナウンス、防災無線や安心メールで流れることで、ほとんどのケースは、数日の間に、発見されて、どなたかが声をかけていただいて、保護されるようになっていきます。

今年の1月からですね、認知症で徘徊されてしまう可能性のある方に対して二次元コード(QRコード)のシールをですね、希望者にお配りしていて、それは貼っていただくと周りの方がですね、おかしいなと思ったときにそのQRコードがあると、その方の連絡先が出てきますので、そんな形で、保護しております。

Q 市民

自分のことをお話させていただきますと、各地方、京都九州に持っていた事業所を、すべて今のおおたかの森のアパートの2階に、法人を集約したんですよね。

そうすると、極端な話、台湾で仕事をした部分京都で仕事をした部分というのが、流山市に法人税としても納税されますし、所得としても納税されるということになるんで、せっかくこれだけ新しい人口が流入してきて、かつ、ベテランの方たちも、たくさん活動的な方がいらっしゃいますんで、これは

すごく極端な例ですけれども、いずれ使わなくなりそうなまた、AIの発達により、いや、この業態はちょっとと思うようなところを誘致するよりも、むしろ創業であったり起業をする方たちを積極的に支援していただくというか土壌づくりをしていただくっていうのも、これはまた流山市の一つの特色のあり方となってくるのではないかなと思います。

やはり、人が移動するというところにそこにはストレスが、付きまといますので、いつも市長が延伸だということで、東京まで便利でいけるなどかと思いつつ、昨日僕、伊勢神宮行って日帰りで帰ってきたんですけどやっぱり帰りが大渋滞の、帰宅ラッシュにぶち当たってしまうと、もう、当然座りもしませんし、それは覚悟してますけれども、もうぎゅうぎゅうの中で帰ってこなきゃいけない。

そうすると、人が動きやすくなればなるほど、またそういった通勤、帰宅ラッシュに、巻き込まれるとかそれを享受しなきゃいけない環境にもなるのかなと思いつつ考えています。

あと、もう1点、私今選挙ツーリズムという流山市議会議員選挙を、今年初めて体験させていただいたのですが、若い人の投票率だと働き手で人口流入で流山を支えつつある人たちの投票率が、思ったほど多くはなかった。それをきっかけに、投票率というものを、市役所のホームページから調べたら、18歳で選挙権を持った瞬間の36%の若者は投票に行くんですけども、この翌年から28%、27%と下がっていくということは、選挙に行ったけど、何か実感がなかったのか、結果がなかったのか。せっかく選挙に行った人たちが、次の年から明らかにいってない人が増えたっていうのは、単純にそれだけじゃなくて、数字が変わったというところもあるかもしれませんが、若い人たちが積極的にそういう政治というよりも行政に興味を持つということも、市長、市政の方で発信していただけると、より、見た目の活気だけではなくて、内側からの活気っていうのを醸成できるんじゃないかなと思いました。

A 市（井崎市長）

今、流山市では20代30代、人口も増えてるってことありますけど、20代、30代、40代の事業家が非常に増えているんですね。事業を始める方、副業で始める方、それが大きくなってですね、個人事業主も増えてると思います。

ただ、今まで 99%の方が、東京に通勤をしている、そういうまちでした。流山市に拠点を置いて、いろんな事業をやってる方が本当に増えてきてまして、そういう意味では特に若い方が増えている流山では、これから何が起こってくるか非常に可能性のある興味深いまちだと思います。

今 TX は東京駅まで延伸という話ですけれども、東京都が進めている臨海地域地下鉄構想っていうのがあって、TX と直結してですね、銀座築地を通して、国際会議場まで結ぶ構想もあるんですね、やっぱりそれ、私はこういうアクセスのよさを改善していくということは、将来の流山のポテンシャルも高いので、私はこれも TX 沿線の他からひかれてしまわない範囲でリーダーシップを発揮して、何とか実現できるように、TX の沿線の中では中心的なメンバーとして、この臨海地域地下鉄構想とのドッキングについては進めていきたいというふうに考えております。

それと、今 TX の 8 両化についても進めていて、あとはもう一つは、通学定期の引き下げですかね。

これも結構高いので、下げることによって利用が増えるということが、北総線で実証をされてますので、この辺もこれから訴えていきたいと思います。

それから、市民参加、起業家とかですね、起業家が増えたり流山市にいる時間が長くなってきている市民が多くなって、東京へ働いて、週 5 日間だけ働きにでていた方も、今でも 10% から 15% ぐらいは、在宅勤務で昼間流山にいるわけです。

そうすると、飲食店もですね、昔は東京で食べたものが今流山に帰ってきてっていうよりも流山に行って食べる、そして帰ってくるのも TX ができたんで早く帰ってこれるので、居酒屋さんとか、飲食店が夜、もう 6 時には、もう 5 時半ぐらいからどんどん人が入って、という意味では、地域経済にとって、今の働き方改革、働き方の変わりが流山にとってプラスに動いてるんです。夜、早くお金が落ち始める。それで、飲食店は、まず人口が増加した上で、その様子を見ながら、飲食店は出てきますので、タイムラグはあるんですけど、もう今、飲食店は急速に増えてますので、これから个性的なお店がもっと増えて、逆にいついっても人が空いてて、っていうと、ちょっと不安だと思うんですけど。

これからさらに飲食店とサービス業が増えてくると思います。それから、特に地方選挙ってのは自分たちの生活に一番関係するのに、国政選挙より投

票率が低いというのは、もう嘆かわしいですけども、ここはやっぱりもう本当に教育で、変えていかないといけないと思うんですが、どちらかというと、国の、教育方針であんまり政治には、忠実ということで、これみんなに問題提起をしていろいろ考えてそれを変えて行って、どうしたらいいかなっていう議論は、教室の中で行われてこなかったですよ。

そういう意味では、ちょっと教育の問題も絡んでると思いますけど、教育と、国の方針が絡んでると思うんですけども、ただ、子供ができて、子供の医療、或いは保育の話が出てきた途端に投票率が上昇してきますので、やっぱり私もね、単身者で、来年自分が今ごろどこに住んでるかわからない時期に、これは相当、うまい啓発をしないと投票率に結びつかないと思うんですけど、一旦、流山に定住を決めて、そして家庭が育まれてスタートするとですね、非常に流山に対する関心は高まっています。

それからあと日本のように、子育て世帯がマイノリティーで、しかも投票率が低いので、国会議員にとって、若い子育て世代は票にならない、シルバー民主主義で、とにかく高齢者に喜んでいただける政策にどうしても、流れがちで、政策っていうよりも、首相のための対策に流れがちでこれでは、日本の未来も開けきません。やっぱり政策が必要だと考えますが、選挙を意識した対策しか行われてないというのが私の認識なんですよ。

ただ流山の場合は、高齢者で団塊の世代も多いですけども、子育て世代、さらに子供も多いということで、人口バランスとしては、シルバー民主主義というよりも、もしシルバーも団塊世代も、働き盛りも、そして子供も、そういう意味では非常に健全な人口構成になっていると思いますので、多くの方が、投票することで、若い方がマイノリティーで投票率が低くてもどうにも公約が続かない国と違って、流山の場合は、どの世帯も投票したらただけの、声が届くという構成に変わってきていると思うので、ぜひ諦めずに 1 人でも多くの方に、啓発喚起をしていただければと思います。

Q 市民

今私子供が去年生まれて今 9 ヶ月くらいなんですけど、まず初めにこれからもぜひ継続していただきたいなということで、流山で子育てを始めてよかったことを、何点か話させていただきたいなと思います。

この子、実は障害があって、障害者手帳の一級を申請してるんですけど、まだ全然首も座ってなくて、流山市が、生まれてから、新生児訪問とか来

ていただいて、ずっとそのちょっと気になるなっていうところが、相談したらずっとその後も定期的にフォローしてくださったりとか、あと児童発達支援センターに通い始めたんですけど、支援員さんがすごく親身に相談のってくれたり、お金がかからずにリハビリが必要なんですけど、受けられたりっていうのができてるので、ちょっとその辺には流山市にすごく感謝させていただいています。

そんな中でいろいろ難しいなということが何点かおきてきまして、今月から、無事保育園に入ることができたんですけど、障害がある子が入る保育園が、かなり少なく、入れるようなところがあっても、普通の障害がない子からも人気で、定員が埋まっちゃってるとかもあったんですね。

都内だと思うんですけど、障害児を入れる枠とか、定員の枠とかそういうのを整備していただいているとかなり、助かるなというのが1点あります。

病気があるので、定期的に通院とかしてるんですけど、一番近い入院施設のある小児科ってというのがこの辺だと松戸市立総合医療センターになるので、車で30分くらいはかかるので、流山市内に小児科はいっぱいあるんですけど、入院施設がある大きいところで小児科対応しているところがないのでそのへんの整備があると非常に助かります。

3点目が、将来的にはもう特別支援学校に通うことになるかなと思うんですけど、同じ病気を持っての方、市内にも何人かいらっしゃるんですけど、松戸とか、野田の方に行かないと、この子、筋ジストロフィーなんですけど、肢体不自由の子を受け入れくれないという話だったんです。

やっぱりそこに送り迎えに行くのも、バス停が少ないとか、そういう問題があったりするので流山市内の特別支援学校で、肢体不自由児を受け入れてくれるようにできないかなってというのが3点目です。

最後、全国的にいろいろ問題提起が始まっているところなんですけど、障害児に関わる装具とかをこの子は作らなければいけなくて、そうすると、車椅子とか装具とかを買おうとすると、高いものだと100万円とかするんですね。

一応今のところ市とかの助成で、月上限1万円とかそういうのがあるんですけど、所得制限に引っかかっちゃうと、助成がゼロになるので、100万円弱の自己負担が発生するみたいなことは、ありえるので、国はあんまりそういう所得制限を撤廃する気がなさそうなので、市とか県のほうで、なんかそういうのをちょっと検討していただけると大変助かるなと。

A 市（井崎市長）

私も後ほど補足など私の考え方を述べたいと思いますけど、健康福祉部長が来ておりますので、専門的なところもありますので、まず健康福祉部長の方から、答えていただきます。

A 市（健康福祉部長）

健康福祉部長の伊原と申します。よろしく申し上げます。

まず1点目の保育所の入所のことからです。こちらについては保育課の管轄にはなるのですが、私から事前に聞いている内容についてお答えをさせていただきます。障害のあるなしにかかわらず、すべてのお子さんが、身近な地域で安心して暮らすことができるように、障害等により特別な支援や、配慮が必要な児童も円滑に保育所に入所できるようにしていくことが必要だと考えています。

現在、令和6年4月から、障害児の受け入れを円滑に進めるための具体的な方策について検討しているところだと聞いております。

それから、二点目の医療機関のことです。市内に小児が入院できる病院が少ないということだと思っております。

これについては、千葉県の医療、入院できる病床を持つ病院についての整備というのは、千葉県の保健医療計画に基づいて整備をされていくということがまずあります。

考え方としては、市ごとではなくて、県の中に、二次医療圏、流山でいいますと、東葛の北部の医療圏というのがございまして、松戸市、柏市、流山市などです。

そうしますと、市の病院整備についての権限というのは、非常に少ないといえますか、事実上はないに近いものがあります。

ただ、おっしゃっていますように、障害をお持ちのお子様の、お母様お父様から、やっぱり近くに安心して通える病院がないに等しい状態であると。実際はお子様を車椅子に乗せたり、場合によっては医療的な、用具と一緒に運んで、通っていらっしゃるということを聞いていて、私も元々保健師ですのでおっしゃってる意味が理解できるつもりです。ですので、今後市ができることとしては、今後もその東葛北部医療圏の中です、松戸保健所で地域医療の調整会議が開かれ、医療機関の整備を検討していて、そこに市も参加することができるので、その中でどういうふうな整備の方向になっているの

かというのはしっかり聞いていくことと、それから、意見が言えるようなきっかけがあったら、意見をしっかり言っていきたい。それから流山医師会とも情報共有をしていきたいと思っております。

今後、しっかりその動向を見守っていったりですとか、あとまたこれは商工振興課の方になるんですが、流山市内に病院を開きたいというふうなお声があったときには、連携をとって、叶う方法を検討していきたいというふうに思っております。

それから3点目のですね、流山市内で今後の特別支援学校の受け入れということなんですが、実際おっしゃってる状況があるということは他の保護者の方からも聞いておまして、直接的にお答えできることは今はもっていないんですが、引き続き考えていかないと。保護者様、それから何よりご本人の、遠くに通う負担になっていくってということもよくわかっておりますので、引き続きいろんな方法を模索したいというふうに思います。

そして最後のですね、特に補装具等の所得の制限のことなんですけれども、国が行っている例えば手当関係ですとか、それから補装具の関連です。この所得の制限の前提の考え方がですね、共働きの場合の夫婦の合算ではなくて、所得の多い方というふうにはなってくるんですけれども、その所得制限にかかってくるケースというのはもちろん出てくることと思います。おっしゃる通り、車椅子、補装具の部分についてのご負担というのは、あるかと思っておりますので、これも引き続き検討課題と思っております。

ただ現時点で国の制度っていうところも多いので、今、市ですぐにその部分を補填するということに至ってないんですが、引き続きお声を聞かせていただきたいと思っております。今後、今日の出会いをきっかけにですね、いろんな情報交換と意見交換をさせていただければというふうに強く感じます。

A 市（井崎市長）

少し補足させていただきますと、児童発達支援センターについては、市内で二つ目の児童発達支援センターが令和6年度中にオープンするのでセントラルパーク駅の周辺に、駅近のところにできる予定です。

これも、役割分担、それからサービスの形態も今の施設とは違う形で補完し合えるように検討しています。

それからですね、保育園の受け入れ枠というのは、例えば枠を設けても、

保育園の園長さん、そして、先生保育士さんたちが、その障害に対してきちんと理解のある人たちが、ケアできる方が1人はいないといけないのと、私が、保護者から聞いて、そして最近、転園されて今落ち着いてらっしゃいますけども、ダウン症のお子さんで、0歳児で預けて、0歳児の時には障害のないお子さんもそんなに動けないので、一緒にいたけれど、2歳児になったときに、教室が二階の方に移動するのですが、そのダウン症のお子さんは、相変わらず0歳児のお子さんのところで、一緒に過ごされていました。

こういった方法では、子供に対する刺激とか、成長に何らかのプラスになる刺激がほとんどない状況ということで、非常に心配されて、そして公立保育園に転園されて、今は満足されてらっしゃるそうなんですけども、そういうケースもありますので、枠を決めることを第1に行うよりも、枠の前に、保育園に対して、まず理解をしてもらう仕組みを作って、それと、枠をつくれるかどうかわかりませんが、そのまま枠を作るとしたら、少なくとも枠を作って、市からの、特別の加算の補助金をもらっておしまいではなくて、きちんとその子に合った保育ができてかどうかのチェックができる制度を作っておかないとですね、本当に理解のないまま保育されるとお子さんにとっては、お子さん自身にも不幸ですし、それを客観的に見る親の立場から本当に悲しさを通り越して怒ってしまう。本当に心配なので、きちんと質が担保できる形と、枠といったもの、或いはそれに対する補助金などを、システムをセットで実施していかないといけないと考えていて、枠についてはまだ考えてませんでしたけど、加算補助金と、質の担保をどういう仕組みにするかというところを、今、担当では考えているところです。

先ほどの入院施設ですけど、この東葛北部医療圏は松戸市、柏市、流山市、野田市、我孫子市で構成されていて、県の方で病床配分を決めていきますので、手を挙げることはできるんですけど、認められるかどうかというのは、ちょっと市の方だけでは動けないので、今、手を挙げて、というよりも、手を挙げて県の方に認めていただけるような、いろいろなしかけをしないといけない状況にあります。

それから特別支援学校については、私もこの4月の選挙のマニフェストの中にも書きましたけれども、柏の支援学校が、老朽化していることと、それから先ほどおっしゃられたように、筋ジストロフィーの場合は、柏だと対象外なのではないでしょうか、とにかく流山にも特別支援学校を誘致したいということでこれは県事業ですので、県の方にはもう伝えてはあります。

これを促進するために、例えば、流山市の方で土地の提供ぐらいはしていないかと。県の方で建物を建てていただく。

それからあと人の確保をしていただくということで、何とかこれが実現できるように熊谷知事及び県の担当部局をお願いをしているところです。これからはしていきます。

それから用具の方はさっきも出なかったんですが、その扶養義務者の年収で高い方の方で扶養状況によりますが、約 1100 万円以上の場合に、対象外となっているのが、国のルールなんですね。これはご存知でしょうか。

Q 市民

そうですね。装具についてはそうだと思うんですが、それ以外のいろんなケアとか、デイサービスとかについては、世帯年収で判断をされたりとか、1000 万円とかじゃなくてもっと低い、600 万円とか 700 万円とかからこう段階的にどんどん減っていくような仕組みになってるものもあります。

A 市（井崎市長）

装具ということで考えていたので、趣旨については理解しました。今後検討し、改善できるよう検討していきます。ありがとうございます。

Q 市民

今日、直接市長がいらっしゃるタウンミーティングにこうやって少人数で参加させていただけるってということで、非常に貴重な機会をいただいて、ありがとうございます。わくわくしていたのと同時にちょっと緊張していますが、どうぞよろしくお願いします。

私自身は、6 年ほど前に流山に引っ越してきたんですが、都内から癒しを求めて引っ越して参りました。

緑もたくさんあるってということが、第一だったり、新旧重なり合い、新らしくて、住みやすいところと、あと本町みたいな歴史も大好きなので、そういう年月の厚みがあるってということ。

人がなんか活発に、動いてるみたいなところとかも最近のシビックプライド的なところがあって流山いいなって思って、住ませていただいています。緑の観点でのご提案があるんですけど、どうですかということと、市長のご意見お聞きしたいなっていうことを、事前の提案には書かせていただきました

た。大きく三つですかねご説明させていただきたいと思います。

【画面共有】

これは総合運動公園の東側の1号調整池なんですけれども、朝の風景ですね。結構のどかで静かな環境だなと思ってのんですけども、こちらは、見たところ管理用通路とかはあるみたいなんですけれども、周りを周回できるというような状況には今はなっていないくて、要望としては、市野谷の水鳥の池みたいに周回路、ちょっとしたものでもいいのでベンチがあるだけで全然違うと思うので、ポケットパークみたいなものですかね、そういったものが、あるといいなあというふうに、思っています。

二つ目なんですけれども、市長はアメリカにいらっしゃって、都市計画をやっていらっしゃって、ご存知の件かもしれないんですが、ニューヨークの街路樹の管理がすごいなとちょっと数年前に発見しまして、流山でやったらカッコよくないかなって思ったんです。

グーグルマップみたいな感じで、街路樹がマップで世界中からネットで見れちゃいます。

URLを入れるだけで見ることができまして、大きさとか種類まで判別できる形になっているもので、ニューヨーク市がやっているものなんですけれども一本のまるをポチってやると、その木の情報、大きさとかですね、幹の直径なんですけれども、名称とかそういうものを書いてあったりとか、あとマイツリーといってそういうのを、登録することができて、そんな形で市民に親しまれているということみたいですね。データ作るのすごい大変そうなんですけれども、調査にはボランティアも参加していて、ある意味、緑好きを増やしていくっていう中でも、いい活動だなっていうふうに思いました。さらに言うと、IT化することで環境貢献の数値が出てくるところが素晴らしいと思ってまして、CO2のことが今は出ていないんですけども、以前はCO2排出量も計算されていました。なぜCO2がないかという、もともと街路樹だけで政策を作られていたのが、2022年から街路樹だけではなく公園の木もやっているみたいで、公園の木が入った関係でちょっとカウントをやり直してますっていうようなコメントがあったんでCO2についても今後は出てくるはずなんです。

今社会的にも、低炭素っていうのは非常にうたわれているところですので、そういったところにも貢献するようなものなんじゃないかと思います。これ一本一本の樹木が、どういうわけで、お金の価値にするといくら分の価値な

んだよってというようなことが分かったり、総量もですね地域ごとだったり、引いていくと、市全体の数字が出るみたいですよ。そしてそれは誰でも見ることが出来ます。

あと、ついでですけれども剪定予定とかも、ここはいつやりますというような、表示とかエリアもありました。

街路樹とか公園の木って、いってみれば市民の持ち物じゃないですか、自分たちの木を自分たちで管理するじゃないんですけれども、行政に全部お任せっていうだけでなく、市民が参加するっていうのは、あってもいいことなのかなと思うんですけれども、仕組み自体を市民が作るっていうのはなかなか難しいので、行政の方でそういったベースを作っていたら、市民側は、参加したい人も結構いるかなと。

例えば先ほどの調査だったり、年ごとに変わっていく、どのくらい調査を頻繁にやるかちょっとわかんないんですけれども最初は多分マッピングとかもやるのかもしれないんですけれども、そういうのに対しては、私が周りの知人なんかと話しているとやりたいっていうような声があったりですとか、もりぽをやっている友人が、これももりぽに使えるんじゃない。やった人がもりぽのポイントをもらえるみたいな仕組みにしたらいねっていう話もしてくれたりとかもしているんで、ひとつご検討の余地あるのかどうか、ちょっとご意見伺えたらなんて思っています。

3点目すいません。最後になるんですけど緑の今の2点とちょっと関係するんですけれども、拠点拠点を緑がある場所は公園とかですね、普段歩く場所って言ったら別にみどりだけ歩くわけではなくて、ショッピングセンターとか、自分が行く病院だったりとか、学校だったりとか、そういったところをつないで皆さん歩くと思うんですけれども、車移動の方も多と思うんですが、一つウォーカブルシティというか、歩いて、自分の町を歩くっていうのは、健康のためにも大変重要なことであるというのは、ベースとしてありまして、その拠点をつなぐ緑道が、見える化されたら面白いのではないかというのが三つ目の、アイデアでこれはちょっともやもやとしたアイデアなので、結局何なのっていうのがわかりづらかったら申し訳ないんですけれども、例えばですけれども、自転車専用レーンのネットワークって、数年前に制定してくださって自転車レーンあると思うんですよ。

私あれ結構、自転車使いなので、使わせていただいていますし、景観にも配慮したマークで、とってもいいなと思って使っていますが、歩く道なので、

こういう幹線にはならないかもしれないんですけども、幹線は幹線に街路樹があるっていう意味では緑のネットワークでもあると思うんです。

そういうものプラス、もうちょっと細かい裏道で歩きやすい道で、それをどうやって選定するのかっていうのは、市民の散歩をたくさんしている人たちが集まってワークショップをやるみたいなことでももしかしたらできるかもしれないし、その地域の人じゃないとわからないと思うんですけども、そういうところを、すごい快適な道があるよみたいな、その拠点拠点だけでなくそれをつなぐ、ルートマップみたいなのができたら面白いなと思いついてこれは、港北ニュータウン(横浜市)の事例なんですけれども、ここは町中が全部こう緑道でこう繋がって隣の駅までもう緑道ずっとずっと歩いていけるっていうような思想で作られたそうなんですけど、流山のイメージと近いなって思ったんですね、緑とすぐそばに住んでいるんだよっていう感覚が近いなと思ったんで、新しくその緑地を作るっていうのはすごく難しいと思うんですけど、今ある、街路樹がしっかりある道、ケヤキのトンネルになるような場所とかも、市長も好きだとおっしゃってたっていうのはちょっと間接的には聞いたんですけども例えばそういったところが、繋いで、見える化していくっていうことで、それが何かできるんじゃないかなあと思うんですね。

A 市（井崎市長）

まず運動公園の東側の調整地については、そのおっしゃってた、中に管理用の通路があって、東側に幹線道路がこれから作られていきますね。

そこが終わらないと、周回路にはならないんですけど、今計画してるのは、中に管理用道路があってそれを散策できるような通路にしようということで、検討してるようです。

外側ですね、通常の6メートルとか7メートル道路にベンチを置くっていうのは、公道上に置くことになってしまうんでそれはできないんですね。ですから、市野谷の水鳥の池のように、周りに、それような道路が歩道がある場合と違って、周回路は、中に設けようということで、調整地なのでベンチをどこに置くかとかっていう話まではしてなかったんですけど、風景もとってもいいのでね、中を散策できるようにしたいということで、計画はしているようです。

Q 市民

そうなんですか。それは、区画整理事業の中でそこまでやられるということですか。

A 市（井崎市長）

周りができ上がった後、この調整地が市に移管された後に、そこに通路を、もちろん、管理用道路はもう県の方で作ると思うんですが、それを、少し手を入れないと、ちょっと無味乾燥な感じになってしまうので。

問題は東側の県の道路ができるのがまだ先なので、フェンスがあって見にくいんですけども、あまり車の通行量もないのでね、ある道路をゆっくり散歩していただいて、参加されてる皆さんも、運動公園の東側で、ちょっと続いてなくて距離がありますけど、この調整池、特に北側から見る、南向き、南方向を見た風景というのは、ちょっと流山とは思えないような、北欧のようですね。

TXで秋葉原駅から約27分のセントラルパーク駅から10分のところにこんな景色があるっていうのは、ちょっと驚かれるような雰囲気のところですので、まだ住宅が張り付かずに車も少ないところですので、ぜひお出かけいただきたいなと思います。

少なくともその周回路については、工事が全部終わった後に入れていく予定に、今検討しているところです。

Q 市民

そこにベンチもぜひ、しっかりしてなくていいので座れるところがあると。市野谷でも昨日おじいさんが座ってたんですけど、杖をつきながら歩いてるおじいさんが夕日や朝日を見たりするには待ってないといけませんし、必要じゃないかなと思っていますのでぜひご検討いただければありがたいです。

A 市（井崎市長）

周回路のちょっと広いところで、絵を書いたり、音楽、楽器の演奏を練習していただいたりですね。

Q 市民

小さい場所でいいと思います。角っこのところで平らなところとかある気

がするので。

A 市（井崎市長）

改めて伝えておきます。

それからニューヨークの話について、これは担当にちょっと英語のできる人見つけて、ちょっとそのやり方とかですね、どういうものかを確認した上で、私も参加で、かなりの部分、やっているんじゃないかと思っています。もりぼの関係で、クリーン大作戦、おおたかの森の東西南北 200 組の親子でやったり、今度 8 月の 4 日だか 5 日か、運動公園で、1000 組～2000 組の親子が、ちょっと想定外の人数が集まってるようですし、その方々に、楽しく、意味のある行動していただけるように、市民と連携して、市民団体が、いろんなイベント、この大事な社会的な広域的な活動をより楽しく面白くできる方法を流山市民がお持ちなので、そういう方々と組んで、これができると、とても楽しくて、するとシビックプライドにも繋がるし、それが 3 番の緑の拠点をつなぐルートマップにも繋がるかなというふうに思います。

このルートマップは、公園と公園を結ぶとどこを通るといってというのは、正直わかるんですけど、公務員がやるとですね公平性の問題で、こっちのルートじゃなくてなぜこちらのルートなのっていう声も上がるんですけど。本当はどこに公園がある緑地があるという、その情報はもちろん提供しますし、ですけど、どこを通ったらっていうのは、市民の方の声でつないでもらわないと。

例えば、公園と公園を結ぶ間に街路樹のある通りはなくても、その生け垣とかガーデニングで綺麗にされてるところのルートがいいねっていうような場合に、申し訳ないけど流山市とか公務員がそういうルートを選ぶっていうのは問題があるんです。市民が実際に歩いて、区域割りをしてですね、歩いてやっていただくと、全市民が作り上げた、もちろん協働なんですけど、でも市民が参加してやっていただいたルートマップだと、多くの方が素直に納得して利用していただけるんじゃないかなということです。

Q 市民

流山ウェルカムマップって、マーケティング課さんですかねやられていたもの、これはワークショップでそのスポットを取り上げられたっていうふうに聞いてるんですけど、こんなイメージですかね。

グーグルとひもづいてこんな形になっていて、素晴らしいなと思うんですけども、もしかしたらこれのバージョンアップでいいんじゃないかみたいな、このポイントみたいな感じで、ここの、小道いいよってというのが追加されていったら、一番簡単にできるんじゃないかなと思ったりするんですけども、これもバージョンアップですかね。1回目集まって、ベースを作られたものに対して、数年ごとに、積み重ねていく、このマップをもっと充実させていくっていうのも、やり方としてあるのかなあと思ったりしました。

A 市（井崎市長）

できるだけ、市民の皆さんと一緒に、或いは市民が主体的にやっていただくそれを行政が応援する方が、面白いものができると思うんですよね。

Q 市民

そうですね。両者の協力がおそらく必要です。

私も市民としてやりたいことは、こういうふうに提案させていただいて、あるんですが、全部はちょっとやりきれないというか、なかなかパワーが必要なところですので、引っ張っていただいて、協力させていただくっていうことは非常に期待したいところです。

ネットのウェルカムマップは、市民参加の、ワークショップ、で作られたってことなので、各皆さんも多分自分のエリアしかわからないじゃないですか。全域知らないですよね。なので、いろんな方の知恵を集めた方がいいなと思いますし、まさにこんなイメージで広げられたらいいなと思うんです。ウェルカムマップの第2回を希望するっていう形がシンプルな要望になるんでしょうか。

A 市（井崎市長）

これは、みどりの課とマーケティング課で、皆さんに参加していただく形をとりながら、計画していきます。

Q 市民

まちづくりについてお話をさせていただきたいんですけども、一つ目なんですけれども、今年の秋の10月に開通する予定であります三郷流山橋ですか、それと二つ目が、江戸川台駅東口の整備計画についてお話をさせてい

ただければと思っております。

三郷流山橋なんですけれども、まず、北の方が、柏たなかと柏の葉キャンパスの間で、道路が進められていると。

それと重なって流山おおたかの森と、今度開通される予定であります三郷流山市ですかそこを通過して、新三郷の方まで、つながるみたいなんですよね。道路が繋がって、物流間のそういうアクセスといいますか、物流間アクセスだとか、いろんな交通渋滞の緩和に繋がるのではないかなど、本当に思うんですけれども、そのあたりについて市長のお考えについてお聞きできればと思っております。

A 市（井崎市長）

この道路に伴う橋の目的は、流山本町八丁目の三郷駅の前に出てくる流山橋の混雑の緩和というのが一番大きな目的なんです。もう一つの目的はつくばエクスプレス沿線で区画整理をずっとやっていますので、その区画をつなげていく幹線道路ということでこの二つの目的を持っていて、流山にとっては、この流山橋の混雑の緩和って非常に大きな、目的になります。

この柏たなかからの道路が入ってくるということは、おおたかの森地域や流山市内の施設、キックマンアリーナなど様々な流山の施設を使っていたきやすくなるので、市としては、もちろん喜ばしいことと思っておりますし、それから、渋滞緩和については、これは開通時にはですね、常盤道三郷インターまで繋がるんですけれども、さっきおっしゃった新三郷にまで繋がると、非常に便利なんですけどこれはまだ、工事、用地買収をしたりということでもまだまだ時間がかかります。

そういう意味では流山橋の混雑緩和がどこまでカバーされるか、橋ができた段階では、効果をフルに発揮するということは、期待できないかと思うんですが、埼玉県、その常磐道三郷インターから、その先へ道路計画を持って今進めていますので、長期的にはかなり便利な道路になると思います。利根川もですね、さらに渡って茨城県側も、この道路もできていますので、茨城県の各市と柏市とで、江戸川の橋の建設の動きもようやく動き始めましたので、そうすると筑波から流山を通過して、新三郷まで将来的にはつながっていく。そうすると、流山橋の混雑緩和への期待ができる。

常磐道と並行して走っておりますけれども、地上部分の大きな幹線道路ができ上がるということは流山にとっては大きなメリットというふうに思ってい

ます。

それからの災害時にですね、流山橋一本では非常に、心もとないんで、やっぱりいろいろな物資輸送の観点、或いは避難の観点からも、この橋ができるというのは、流山市として心強く思っています。

Q 市民

ありがとうございます。

三郷流山橋なんですけれども、ランニングする時だとか、ナイトウォーキング時に、建設中の部分を歩いていたんですけども。まだちょっと開通建設作業中のご様子でして、資材が滞っているとかの懸念もあるかと思うんですけども、予定通りに、開通するのでしょうか。

A 市（井崎市長）

はい。以前の予定より半年遅れて今年の10月ですので、もう遅れるということはないと思います。

Q 市民

ありがとうございます。2点目なんですけれども、江戸川台駅の整備計画についてなんですけれども、以前、社宅みたいなのがあったじゃないですか。今なくなっていて、更地の状態なんですけれども、公園として整備されるかと思うんですけども、懸念があるのかなと思うのが、騒音だったり、環境の問題のことかなと思うんですけども、騒音対策であったり、あと環境対策について、できればいいなと思い要望します。

A 市（井崎市長）

ジェット口跡地のことだと思うんですが、まず公園ではなくて、江戸川台駅東口を大幅にリニューアルします。

今から約21年前に駅東口駅前広場ができてから時間が経って、現在、非常に使いにくいってということで、それを使いやすいということ。それからそのために少しそこを拡張する。

駅前に流山市の出張所や公的な機関がいくつかありますので、それを広場を広げて使いやすいと同時に、そこにある公共施設をジェット口の方に移す。そしてさらに、東口商店街に人が流れるような集客施設、人が交流する

ような施設を検討していこうということで考えていますので、公園は特に予定していません。

公園ができるからといって騒音が起きるといのご心配は要らないと思います。公園はできないんですが、公園ができれば、子供の声が聞こえるかもしれませんがそれは騒音ではなくて、まちの活気だというふうに認識していただいた方がよろしいかと思います。

今回の江戸川台駅東口の再整備では、ジェット口跡地の公共施設を中心とする集約化、それから、駅広場のリニューアル、そして商店街通りのリニューアルということでこの3点セットで、東口を再整備しようという事業です。騒音とかですね、それから渋滞とか、そういうことは心配ありませんし、多分緑化は、今よりさらに緑化をしていくことになると思います。

Q 市民

本当に貴重なご意見をありがとうございました。

A 市（井崎市長）

最後に一つ、障害児の手当金のご質問いただいた方へ、障害児の手当金や装具の購入補助に対する所得制限の考え方と、それに対する善処っていうことでいただいていたんですが、本市で調べてお答えしているのが、装具の購入だけだったんですね。障害児の手当金などは所得制限が600万とかがあっていうのが、確かあったわけで、総合的に今度検討した上でお答えしたいと思います。

A 市（秘書広報課長）

連絡先はいただいているので、いただいたご質問に対して、後日メールアドレスの方に担当課からお答します。

Q 市民

ありがとうございます。

A 市（井崎市長）

今月中に回答は、厳しいかもしれませんが、意思決定しないといけないものもあると思うので、少なくとも、数週間以内という目安でお答えしたい

と思います。

A 市（秘書広報課長）

それでは、いろいろな観点からご発言いただきありがとうございました。終了の時刻となりましたのでオンラインタウンミーティングを閉会としたいと思います。皆様ありがとうございました。

A 市（井崎市長）

ありがとうございました。

Q 市民

ありがとうございました。